

## 「都道府県がん計画中間評価実施に関するアンケート」

### 集計レポート

47 都道府県を対象に都道府県がん対策推進計画の中間評価の実施についてアンケートを行い、46 都道府県から回答を得た。主なポイントは下記の通りであり、中間評価作業への支援が重要であることが示唆された。

- ・ 中間評価の実施について「実施予定」27、「未定／検討中」11、「ない」8、未回答1
- ・ 実施予定27のうち「やり方にめどがついている」2、「ついていない／検討中」25
- ・ 実施にあたっての課題は、「データ不足」17、「多忙」13、「ノウハウ不足」13、「人手不足」11 など（複数回答可）

#### アンケートの概要

目的:	都道府県がん対策推進計画の中間評価実施に対する、課題とニーズの把握。
背景:	2020 年度は、第 3 期都道府県がん対策推進計画の中間年にあたり、国が中間年度に中間評価を行うのと同様に、都道府県では中間評価を実施する年度になる。
対象と方法:	都道府県がん計画担当者宛て、FAX と Email で依頼し、Fax にて回答。
期間:	2019 年 10 月 1 日～9 日

2019 年 10 月

特定非営利活動法人がん政策サミット

1. 貴都道府県では、がん計画の中間評価をする予定がありますか。

都道府県	中間評価を行う予定	予定年度
北海道	ある	2020
青森県	ある	2021
岩手県	ある	2020
宮城県	ある	2021
秋田県	ある	2020
山形県	ない	
福島県	-	
茨城県	ある	2020
栃木県	未定/検討中	
群馬県	未定/検討中	
埼玉県	ある	2020
千葉県	ある	2020
東京都	未定/検討中	
神奈川県	未定/検討中	
新潟県	ある	2019
富山県	ある	2020
石川県	未定/検討中	
福井県	ある	2020
山梨県	未定/検討中	
長野県	ある	2020
岐阜県	ある	2020
静岡県	ある	2020
愛知県	ない	
三重県	未定/検討中	

都道府県	中間評価を行う予定	予定年度
滋賀県	ある	2020
京都府	未定/検討中	
大阪府	ある	2020
兵庫県	未定/検討中	
奈良県	ある	2020
和歌山県	ない	
鳥取県	ない	
島根県	ある	2020-2021
岡山県	未定/検討中	
広島県	ある	2020
山口県	ない	
徳島県	ある	2020
香川県	ある	2020
愛媛県	ある	2020
高知県	ない	
福岡県	ある	2020
佐賀県	未定/検討中	
長崎県	ある	2019末・2020
熊本県	ない	
大分県	ある	2020
宮崎県	ある	2020
鹿児島県	ない	
沖縄県	ある	2020

●集計結果

実施予定」が 27 で約 6 割の過半数となり、各都道府県のがん対策推進計画から読み取れるより多かった。「未定/検討中」は 11 であるが、毎年度の進捗管理の中で関連作業として実施するという県もあった。

●考察

がん対策の改善のため中間評価は重要と考えられるが、実施しないとする県もあり、実施する県としない県に分かれることが懸念される。ただし、未定／検討中の中から、実施するところが増えることも予想される。

○当 NPO の活動

本アンケート結果を公表することが、中間評価実施の普及に資すると考える。

2. 中間評価に携わる（予定）の組織や人を教えてください（複数回答）。

[回答総数: 実施予定があると回答した 27 道府県]

	県	%
行政担当者	27	100%
都道府県がん対策推進協議会（もしくはそれに相当する会議体）	25	54%
前記の部会等	12	26%
都道府県がん診療連携協議会（もしくはそれに相当する会議体）	4	9%
前記の部会等	3	7%
評価のために設定された会議体	0	-
外部委託先（コンサルタント等）	0	-
その他	計画策定時のワーキンググループ(仮) がん対策部会 がん対策分科会 医療審議会	

●集計結果

行政担当者 27、がん対策推進協議会 25、その部会 12、がん診療連携協議会 4、その部会 3、その他の会議体などが 4 であった。

●考察

がん対策の実施と評価に当たってはがん対策を担っている関係者を巻き込むことが重要であると考えられるが、部会などの参加は少ない。

○当 NPO の活動

六位一体のがん対策をうたっており、患者代表委員が含まれた各会議体および部会での実質的な議論を経て評価することが重要と考え、支援していく。

3. 中間評価のやり方については目途がついていますか。

[回答総数: 実施予定があると回答した 27 道府県]

ついている	2	4%
未定／検討中	25	54%

●集計結果

「めどがついている」はわずか 2、「ついでない／検討中」が 25 であった。

●考察

中間評価のやり方に関する研修などの支援が必要なタイミングとなっている。その際、単に施策の進捗管理である「実行（セオリー）評価\*」ではなく、実施した施策が効果をもたらしたかという「効果（インパクト）評価\*」を行うことが求められており、適切な方法をガイダンスすることが重要である。

\*用語については、『誰にでもできる！がん計画 中間評価ガイドブック』（以下、『ガイドブック』）を参照

○当 NPO の活動

『ガイドブック』の提供、がん政策サミットの場合での模擬中間評価、分野別ロジックモデル（目的と施策の論理構成図）の提供、中間評価に関する相談支援を行っているが、各方面からこうした動きが高まることが重要と考える。

4. 中間評価を行う（検討する）にあたって直面している（想定される）困難を教えてください（複数回答）。

[回答総数: 実施予定がある、未定／検討中と回答した 38 都道府県]

行政が多忙であること	13	48%
行政の人手不足	11	41%
研修などの支援不足	6	22%
ノウハウ不足	13	48%
データ不足	17	63%
会議体の専門職委員の理解不足	1	4%
会議体の患者関係委員の理解不足	0	-
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価指標の設定。</li> <li>・ 毎年数値が出ない指標があること。</li> <li>・ データの解釈をどのように行うか。</li> <li>・ アウトカム指標の把握。</li> <li>・ 貴団体にご指導いただいたロジックモデルでの評価を行いたいと行政担当者間では考えているが、委員の皆さまへの手法の説明や理解をいただき、作業を県職員が主となり進めていけるかが課題。県の職員にその力量がない。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予算の確保。</li> <li>・ 長期的な対策が必要ながん対策を短期間で評価することが困難と考えている。</li> <li>・ 中間評価をするとしている国の動向を踏まえ、検討する必要があること</li> <li>・ 毎年度計画の取組状況を評価しているため。</li> <li>・ 別途中間評価を行う必要があるか、今後検討が必要。</li> <li>・ 中間評価時期を計画内に明記していないため、毎年度の進捗管理の中で関連作業として中間評価を行うことを見込んでいます。</li> <li>・ 毎年、〇〇県がん対策推進協議会で評価を行うこととしているので、中間評価を行うかは未定。</li> <li>・ 年1回、〇〇県がん対策推進協議会にて進捗評価を行っている。</li> <li>・ 県がん対策推進協議会において進捗管理を行うこととしている。</li> </ul>
--	---

### ●集計結果

「多忙」(13)と「人手不足」(11)の1つ以上をあげたところが17あった。「データ不足」が17、「ノウハウ不足」が13あった。

### ●考察

多忙と人手不足の状況の中で実施するため、明快なガイダンスと手厚い支援が重要である。データ不足に関しては、都道府県独自でしか収集できないデータでなければ、国などから一括して都道府県にデータを提供する仕組みがあれば都道府県ニーズに応えられる。その際、がん対策の分野ごとに、分野アウトカム、中間アウトカムに対応したデータセットとして提供することが利便性を高める。ノウハウ不足には、具体的な方法などの支援が必要である。

#### ○当 NPO の活動

前項のような活動を行っている。データセットについては、がん対策地域別データ集およびそれを可視化したグラフ集を提供しており、今後、データ項目を拡充するとともに、分野別ロジックモデルに沿った提供のかたちに移行していくことで、利用者の利便性を高めていきたい。

### ●まとめ

- ・ 中間評価は、患者住民のためのがん対策が均てん化（あまねく質の高い状態になっている）されるために重要であり、全都道府県が中間評価をすることが望ましい。
- ・ その際、患者・住民も含めた六位一体で審議するプロセスが踏まれることが重要である。
- ・ 患者住民に届くがん対策とするため、中間評価は、単に施策の進捗管理ではなく、実施した施策が効果をもたらしたかという「効果（インパクト）評価」が必要とされている。
- ・ 都道府県および国のこれまでの努力、先進事例、他分野での知見などを集約すると、適切な中間評価を実施する素材は揃いつつある。

- ・ 分野別ロジックモデルとそれに対応したデータセット集を活用し、がん対策推進協議会および部会にて審議をすることで、効果評価を軸とした中間評価を効果的かつ効率的に実施することが可能な環境が整いつつある。
- ・ その具体的方法については『誰にでもできる！がん計画 中間評価ガイドブック』が参照できる。模擬中間評価ワークショップ実施例については、『第 17 回がん政策サミット 2019～みんなの知恵を集め、効果的な中間評価を効率的に実行しよう～報告書』に記載されている。

●参考資料

『誰にでもできる！がん計画 中間評価ガイドブック』

検索サイト「がん政策サミット」>HOME>がん計画の PDCA

または、 <https://cpsum.org/pdca>

『第 17 回がん政策サミット 2019～みんなの知恵を集め、効果的な中間評価を効率的に実行しよう～報告書』

検索サイト「がん政策サミット」>HOME>がん政策サミット

または、 <https://cpsum.org/summit>

本件問い合わせ先

特定非営利活動法人がん政策サミット

Email: [info@cpsum.org](mailto:info@cpsum.org)

Tel: 080-3257-2354 (火・水・木)